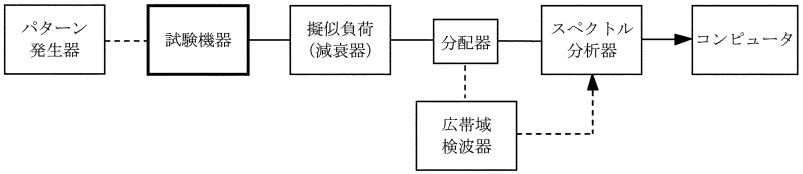
する。

⑸　５⑴において、周波数軸上１チャネル送信のみのものは、９dB とする。

注　搬送波±６MHz の範囲を除く 30MHz から搬送波周波数の５倍以上の周波数までを、掃引周波数幅１GHz ごとに又は連続掃引して探索するものとする。

五　スプリアス発射又は不要発射の強度（帯域外領域における不要発射の強度１）

１　測定系統図



２　測定器の設定等

⑴　不要発射探索時のスペクトル分析器を次のように設定する。

掃引周波数幅	（注１）
分解能帯域幅	30kHz
ビデオ帯域幅	100kHz
Ｙ軸スケール	10dB／Div
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
データ点数	400 点以上
掃引時間	１サンプル当たり１バーストが入ること（注２）
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

⑵　搬送波又は不要発射電力測定時のスペクトル分析器を次のように設定する。

中心周波数	搬送波又は不要発射周波数（検出した周波数）（注３）
掃引周波数幅	搬送波測定時は 2.4MHz、不要発射測定時は１MHz
分解能帯域幅	30kHz
ビデオ帯域幅	分解能帯域幅と同程度
Ｙ軸スケール	10dB／Div
入力レベル	最大のダイナミックレンジとなる値
掃引時間	１サンプル当たり１バーストが入ること
データ点数	400 点以上
掃引モード	単掃引
検波モード	ポジティブピーク

⑶　スペクトル分析器を用いて得られた測定値は、外部又は内部のコンピュータによって処理する。

３　試験機器の状態

⑴　試験周波数に設定し、強制送信制御の動作モードで変調信号の送信速度（bps）と同じ送信速度の標準符号化試験信号により変調して送信する。

⑵　複数の変調方式及び送信速度を有するものは、それぞれの変調方式及び送信速度ごとに測定する。

⑶　複数のチャネルを連結するものは、時間軸上１チャネル送信に固定する。

⑷　周波数軸上２チャネル送信に固定する。

４　測定操作手順

⑴　スペクトル分析器の設定を２⑴とし、不要発射を探索する。

⑵　検出した不要発射の電力値に分解能帯域幅換算値（注４）を加えた値が十二の項に規定する基準値以下の場合は、検出した電力値に分解能帯域幅換算値を加えた値を測定値とする。

⑶　検出した不要発射の電力値に分解能帯域幅換算値を加えた値が十二の項に規定する基準値を超える場合は、当該基準値を超える周波数において、次の⑷から⒀までの手順で詳細測定を行う。

⑷　七の項で測定した空中線電力の測定値に、12dBを加えた値を算出してP_bとする。

⑸　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、スペクトル分析器の中心周波数を搬送波周波数とする。

⑹　スペクトル分析器を掃引して、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

⑺　全データの dB 値を電力次元の真数に変換する。

⑻　全データの電力総和（注５）を算出し、その値を搬送波電力P_Cとする。

⑼　スペクトル分析器の設定を２⑵とし、スペクトル分析器の中心周波数は、⑶において十二の項に規定する基準値を超える各周波数とする（注３）。

⑽　スペクトル分析器を掃引して、全データ点の値をコンピュータの配列変数に取り込む。

⑾　全データの dB 値を電力次元の真数に変換する。

⑿　全データの電力総和（注５）を算出し、その値を不要発射電力P_Sとする。

⒀　不要発射電力を次式で算出する。

不要発射電力＝（P_S／P_C）×P_b

５　試験結果の記載方法

算出した不要発射の電力値を、技術基準が異なる周波数帯ごとに dBm／MHz 単位で最大の１波を周波数とともに記載する。

６　その他

⑴　変調符号を標準符号化試験信号に設定できない場合は、通常運用状態において占有周波数帯幅が最大となる変調符号とする。

⑵　４⑻の注５において参照帯域内のＲＭＳ値を用いる場合は、測定値にバースト時間率（注６）の逆数を乗じた値を測定結果とする。

⑶　３⑷において、周波数軸上１チャネル送信のみのものは、周波数軸上１チャネル送信に固定する。

⑷　４⑷において、周波数軸上１チャネル送信のみのものは、９dB とする。

注１　搬送波周波数±（2.5MHz から 3.8MHz まで）
　　搬送波周波数±（3.8MHz から６MHz まで）

注２　「（掃引周波数幅／分解能帯域幅）×バースト周期」以上とすることができる。ただし、検出した信号のレベルが最大３dB 小さく測定される場合があるので注意する。

注３　不要発射周波数が境界周波数（注７）から参照帯域幅の１／２以下の場合は、中心周波数を境界周波数から参照帯域幅の１／２だけ離調させた周波数とする。

注４　分解能帯域幅換算値＝15.2dB

注５　電力総和の計算は次式による。ただし、参照帯域幅内のＲＭＳ値が直接算出できるスペクトル分析器の場合は、６⑵の補正を行うことにより測定値とすることができる。

$$P_C = \left(\sum_{i=1}^{n} E_i \right) \times \frac{S_W}{RBW \times k \times n}$$

$$P_S = \left(\sum_{i=1}^{n} E_i \right) \times \frac{S_W}{RBW \times k \times n}$$